



右から左へと歩いた足跡が4個つながって見つかりました。私のすぐ横にあるのが左後ろ足の跡、地面に深く食い込んだ爪の跡が見えます。前足の跡は後ろ足が踏みつぶしているため見えません

「こりゃあすごい足跡だ！ 私たちは巨大な恐竜の足跡化石を前にして顔を見合わせました。昨年(2016年)の8月15日、モンゴルの研究者マイン・バイラルさんが「足跡らしいものがある。見てほしい」というので確認に行ったところなんです。私たちが待っていたのは長さ106センチという世界最大級の恐竜の足跡でした。」

「全長30メートル、体重40〜50トンってどこかな？ そんな巨大恐竜が白亜紀の終わりまで生き残っていたなんてすごい発見だ！」

私たちがはわくわくしながら岩石を取り除き、その大きな左後ろ足の足跡を露出させたのでした。

超大型 ティタノサウルス類の足跡

岡山理科大学教授・石垣 忍



豆知識

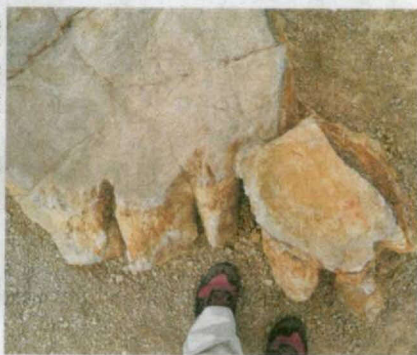
ティタノサウルス類 首と尾が長く、植物食の「竜脚類」の中で恐竜時代の最後まで生き残ったのはティタノサウルス類でした。超大型のものがいた南半球と違って、北半球では大型のものは見つかっていませんでした。この足跡は北半球にも超大型のティタノサウルス類がいた証拠です。



絵・石垣南

右、左、右、左つながって出た！

右後ろ足の足跡は、親指の上に、なんと大型の肉食恐竜の足跡が重なっていました。植物食恐竜の足跡を肉食恐竜が踏みつぶしていたのです。



そして今年、岡山理科大学とモンゴル古生物学地質学研究所が力を合わせて発掘に挑みました。すると次々と足跡が地層の下から姿を現し、合計四つの足跡がつながったのです。連続した足跡は、生きている恐竜の姿をまざまざと私たち語りつづけてくれます。姿勢や足の動き、歩く速度まで分かるのです。そこからは足先を横に向け、地面を握りしめるように指先を動かし、ゆっけりと歩いた。巨大な恐竜の姿がよみがえってきたのです。

足跡の化石には、へこんだタイプと、足跡のくぼみに流れ込んだ砂が固まって残る「足型」タイプがあります。これは「足型」では世界最大のものでした。

しかし、見つかった足跡は1個だけ。丘のふもとなので足跡は丘の地層の下へとつながっているはずでした。それを掘るのはすごい力仕事です。私とマイン・バイラルさんは「来年は続きを掘ろう」と固く約束したのでした。



第1発見者のマイン・バイラル 研究員(左)と私